

《思い出》

「図書館員になるには」を発行して

菅原 春雄

はじめに

「図書館員になるには」を発行したのは昭和57年、今年でちょうど20年になります。最近、図書館学会の人たちから当時の「図書館員になるには」についての執筆の思い出や、苦労話を講演ないし研究会で話してほしいという要望もあり、また、わたしも何か記録しておかなければという矢先、これを機会に「図書館員になるには」について執筆の動機や反響など、思い出をつづることにしました。

執筆の動機

本書のはしがきにも書きましたように、私は昭和46年4月、二つの大学図書館現場を経て旗の台の、立正学園図書館、のちに文教大学女子短期大学図書館に勤務しながら、非常勤として短大の図書館学課程で整理技術の科目を担当していました。

のち、石黒宗吉教授（元国立国会図書館司書監）退職後、専任講

師になり、他大学への講師出講などし、短大の学生や受講生などに授業をしていました。その間、学生、受講生からしばしば、図書館学の勉強方法や就職に関する問題などについて質問を受けていたが、その後何かガイドブックか参考書でも作成して見ようと思いい、一年ぐらいいかり、資料収集や図書の構成を検討しました。当時、私は私立短期大学図書館協議会理事の「広報担当」をしており、印刷関係にも知己があり、新日本印刷が引き受けてくれました。また、より・きよし先生（当時私立短期大学図書館協議会会長）が以前国会図書館に在職していた関係から、やはり新日本印刷と関係があった、それらの縁で出版資金は菅原と新日本印刷と共同で持とうということになりました。ところで発行所については、共立女子大学の理事会の席上、私立短期大学図書館協議会での出版にしたいので名前をかしてほしいとお願いし、その場で私の原稿を回覧し了解を得ました。発行は昭和57年5月1日「私の誕生日」にしました。

編集で苦労したことは、まず、第一にタイトルをどう付けるかと

いうことでした。通常は「司書になるには」です。当時一般人は司書とはなにかを認知しておらず、「図書館職員になるには」ではパットしません。最近では「図書館司書」が一般的であり、「図書館法」では「図書館専門職員を「司書」と称する」とあります。最終的には私立短期大学図書館協議会事務局担当の渡辺敏一氏の意見、アドバイスで「図書館員になるには」に決定しました。カリキュラムは昭和43年図書館法施行規則の改定を準拠に記述していますが、現在では平成8年8月、図書館法施行規則の改定で講習科目も変わり修得単位も増えました（20単位）。発行部数は初版2000部、改訂版3000部でした。出版のPR活動では私立短期大学図書館協議会事務局の渡辺敏一氏に大変お世話になりました。新刊情報として「ちらし」には本協議会会長よりきよし氏、國學院大學栃木短期大学教授（元国立国会図書館司書監）の弥吉光長先生、慶應義塾大学名誉教授中村初雄先生、東京学共大学名誉教授北島武彦先生から推薦文をいただきました。おかげで隠れたベストセラーとなり、いささか図書館界に刺激を与えました。発行当初から入手方法などの問い合わせが発売の新日本印刷や、発行の事務局（当時東京女子大学短期大学図書館）にあり、大変な迷惑をおかけしました。ここでお礼申しあげたいと思います。いまだに本書の問い合わせや再版の要望もありますが、現在は絶版にしております。

時折、利用者から当時入手困難の思い出も電話やメールでいただいております。このガイドブックが学生、受講生、図書館界に多少なりとも刺激を与えたと、私は、今でも自負しています。

学生等が本書を入手したい理由は、試験問題集で過去どんな問題が出題されたか見たい、またそれについて勉強したいからで、その

ような要望がよせられています。現在でも司書採用試験のもっとも最近の試験問題例は公表していないのが実情です。

二番目に苦労したことは試験問題例の収集です。まず故石黒宗吉先生の資料収集を基に、受験生から出題の聞き取りや、人事院月報に一部「国家公務員試験——図書館学」が紹介されていたので、それを収録しました。人事院へ掲載承諾を得てその後、塩見昇著「図書館員への招待」の巻末に試験問題例が紹介されました。また「採用試験問題あれこれ／有倉久雄」（図書館雑誌V88・7）には採用試験、最近の傾向とその対策V88・12が掲載されていました。インターネットでも一定期間を過ぎた過去の試験問題を公表しておりますので見てください。

就職情報

図書館職員の求人・求職情報は「図書館雑誌」に毎月巻末の「くばん」に求人・求職情報が掲載されているので注意して見る必要があります。インターネットでは日本図書館協会「図書館職員採用試験情報」図書館員になるには、改訂版・WEB版、図書館就職相談室総合リンク集・TRC・求人。他に雑誌で「図書館雑誌」の「図書館就職大作戦」は1994・1月から、また「図書館雑誌」の「図書館就職大作戦1998・4月から」には就職体験談などの記事も掲載されているので参考になります。図書館への就職は現在厳しいものがあります。定員削減やボランティアの導入などなかなか難しいです。毎年有資格者が大学、講習から約1万名も出ており、就職率は全体の10%以下の現状で、まさに需要と供給のアンバランスが生じている状態です。

おわりに

私が「図書館員になるには」を出版して以来、学生・受講生、司書を志す人々、図書館学担当者から本書を活用し参考になった、お陰で合格した、という手紙を頂きました。故岡田温先生（元国立国会図書館司書監）はじめ元本学教授の石黒宗吉先生など数多くのお礼の手紙やハガキも頂きました。執筆に際しては多数の先輩諸氏のアドバイスと支援をいただきありがとうございましたと思っています。最近はこちらに私の不足分を補う類書も多数発行されております。

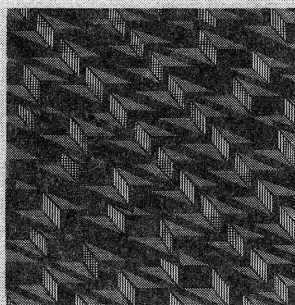
最後に本学短大も18才人口の減少など社会・時代の流れに対応し、大学改組転換により、平成15年度をもって、短大3科すなわち

改訂版

図書館員になるには

＜資格と就職のガイド＞ 募集要項と試験問題例 300 道

菅原春雄 編著



現代文化学科、英語コミュニケーション学科、ライフデザイン学科を無くし、健康栄養学科1科だけを残すことになりました。図書館

学課程「司書・司書教諭」は旗の台校舎で昭和47年度より開講し、所属は文芸科に属し、受講学生対象は文芸科、英語英文科の学生が「各科の専門科目＋図書館学課程」の科目を履修しました。その後、校舎は湘南に移転し、受講学科は従来の文芸科（現代文化学科に改称）、英語英文科（英語コミュニケーション学科に改称）、それに今のライフデザイン学科（旧家政科）も履修できるようになり、平成13年度末現在で司書約2700名、司書教諭300名の有資格者を出しましたが、図書館学課程も平成15年度をもって閉講することになりました。これは図書館学に携わった私一人ばかりではなく、さびしさを感じます。中には情報学部や、文学部に司書課程設置してはとの声もありますが、いずれ将来、学生や大学が必要を感じ、要請・要望が固まれば実現する可能性もあります。